

評価 A:よい B:おおむねよい C:不十分

アンケート集計 5:たいへんよい 4:よい 3:普通 2:やや不十分 1:不十分

| 総合評価 | | | | | | | |
|--|----|---|---|---|---|---|---|
| 4つの重点目標の実現に向け、各対象事項においてそれぞれ熱心な取り組みがみられ、安心・安全な環境づくりが実現している。定時制ならではの少人数教育の実践が可能な環境が十分にいかされ、生徒一人一人に丁寧に向き合う体制がとられた。今後、学校教育目標とする生徒の成長支援のために、職員間の連携方法等の改善をすすめ、各担当分掌の取り組みのさらなる充実をはかりたい。また、あらゆる事に対して、対応が遅れることのないよう、職員間の連携をより強くする必要がある。さらに学年間の足並みが揃うよう、連絡会のほか担任間での連携をはかり、統一した指導が出来るようにすることも必要である。 | | | | | | | |
| 成果と課題 | 評価 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 改善策・向上策 |
| 重点目標① いじめ・体罰などのない安心かつ安全な学校づくりを進める。 【成果と課題】 定時制全体が落ち着いた雰囲気、いじめ・体罰・問題行動のない学校生活を送っている。職員対象の非違行為防止研修会により、体罰防止の意識も定着している。生徒が安全に下校できるため、気象や交通の情報を把握し対応できた。 今後、スマートフォンの普及によるトラブル等も考えられるので継続的に指導したい。 | A | 5 | 1 | 3 | | | 落ち着いた学校生活環境が醸成されており、今後も継続したい。また、さらなる研修会や学習会などにより、コミュニケーション能力の向上や社会性の定着を目指したい。 不測の事態・重大な気象状況（台風、大雪等）の場合は、今後もあらかじめ適切な対応策がとれるようにしておく必要がある。 |
| 重点目標② 学習・生徒指導の両面から生徒一人ひとりを大切にしている教育活動を推進し、社会に出てからも通用するような生きる力と豊かな感性を培う。 【成果と課題】 習熟度別授業や成績不振者への補習を実施した。また面接等を通じて、生活面や学習面に対し、丁寧に生徒の相談に乗ることができた。 個々の生徒の学力差が大きいため、レベルに応じた授業や出席率の向上につながるような対策が不十分だった部分もあった。 | B | 1 | 5 | 2 | 1 | | 学習面、生活面ともに、全員が一丸となって、生徒一人ひとりに対し、生徒の潜在能力を引き出すため、さらに根気強く指導を続けたい。 集会や講演会での話を聞く時の態度など、相手の気持ちや、周りの状況を理解する力が不足している生徒に対して、適切な時に、適切な場で指導する必要がある。 |
| 重点目標③ 生徒が希望する進路を実現するための基礎的な学力及びコミュニケーション能力を育み、社会的適応力を高める。 【成果と課題】 様々な外部講師を招いて講習会を実施したことにより、生徒自身普段と異なる刺激を受けることができ、生活態度の向上、社会への意識向上がみられた。 生徒会活動や生活体験発表会などへの参加意欲に乏しい生徒への指導が困難であった。また、コミュニケーション能力やマナー等については、生徒ごとに差が大きく、適応力が身につけにくい生徒の能力向上のための指導は難しい現状がある。 | B | | 3 | 6 | | | 職員がコンセンサスをもち、学校諸活動のすべてにおいて目標実現のための指導を進める。また、今後も様々な講習会や講演会を計画し生徒に自己の在り方や生き方について刺激と情報を与える。 個々の生徒に応じ、普段から社会性を身につけさせられるよう意識しながら、粘り強く指導していく必要がある。 |
| 重点目標④ さまざまな活動を通じ、地域との連携と開かれた学校づくりを推進する。 【成果と課題】 定時制PTA・説明会等において、同時に授業公開を実施した。また、校内生活体験発表会では、外部からも多くの方に参加していただいた。さらに地域の保健師や支援員などとの意見交換の場を持てた。 時間的な制約もあるが、地域において、定時制として生徒も取り組める活動があれば良いと感じる。 | B | | 4 | 4 | | 1 | 地域の保健師や支援員との交流により、生徒へ多面的な指導ができるようになっていたので今後も継続していきたい。さらに地域の方々に応援・サポートされる環境づくりを模索していきたい。 生徒会や定時制として地域に貢献する活動、行事への参加も検討する必要がある。 |

| 評価項目 | | 評価 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 改善策・向上策 |
|------|-------------------------|----|---|---|---|---|---|---|
| 学習指導 | 授業内容（補充授業を含む）の充実と出席率の向上 | B | | 3 | 5 | 1 | | 生徒の実態に応じた課題や教材の選定により、生徒の興味関心を引き、基礎学力の定着や出席率の向上をはかる。また、学習相談日を有効活用し補習などを実施する。 少人数講座でも理解度に大きな差があるので、個別指導が必要である。 |
| 進路指導 | 進路目標の明確化と進路実現 | B | | 3 | 5 | 1 | | 学習の意義を見出せていない生徒もいるので、進路の明確化が必要である。また、3、4年からではなく1、2年の時から将来の進路への意識付けをする。 全日制進路担当者の協力も得られるのでさらに指導を充実させたい。 |
| | キャリア教育の推進 | B | | 1 | 7 | 1 | | 低学年での取り組みの充実をはかる。また、相手の立場に立って考えることが難しい生徒に対する指導（フォロー）が必要である。 アルバイトは就労体験として、とても大切であるが、学業に少なからず影響があり、学業を大切に考える指導も必要である。 |
| 自主活動 | クラブ・生徒会活動等自主活動の活性化 | B | | 3 | 4 | 2 | | 特に運動系では大会等に参加する生徒が激減し、クラブ活動が成り立ちにくく、種目や活動内容の見直しが必要である。鉄道ダイヤの改正がなされない限り改善が困難な部分が多いが、限られた時間内で可能な活動の検討をすすめたい。生徒会行事、文化祭準備においては、個々の生徒が自己有用感を得られる取り組みとなるよう、目標の明確化と計画・指導の工夫をはかり、一定期間ごとの計画表を作成・共有により、生徒の自主性を育む指導を目指したい。 |
| 生活指導 | 社会的常識を持つ人間の育成 | B | | 5 | 2 | 2 | | 「規則・礼儀・マナー」など、生徒が社会に出た際に必要不可欠な部分を職員全体でもう少し指導していく必要がある。見過ごすのではなく、寄り添い、継続した指導が重要である。 社会常識やルールに加え態度や言葉遣いについて授業や行事など普段の学校生活を通してことあるごとに指導する。 |
| | 全職員による生徒の状況把握 | B | 2 | 1 | 2 | 4 | | もっとオープンに生徒の実態や支援の手立て等が共有できる場や体制が望まれる。配慮をしながらも、職員間の情報共有は早め早めを心がけたい。 毎週の職員連絡会などの中で、早い段階で生徒の出欠席や状況を確認し、細かい指導内容を随時検討し対応する。共有フォルダ等を使用し、生徒の出欠席・生活状況等を職員全体で常に共有・把握する方法も考えられる。 |
| | 相談体制の充実 | A | 2 | 3 | 4 | | | 機会設定は十分におこなえている。 |
| | 家庭・地域との連携 | B | 1 | 3 | 5 | | | クラスメイト以外とのコミュニケーションに慣れる機会が必要である。夜間定時制が地域に一步出ていく方法を探りたい。 |
| 学校運営 | 緊急時保護者への連絡体制の完備 | A | 1 | 5 | 3 | | | 緊急時の職員の連絡方法や生徒の安否確認方法、具体的な誘導などの動きや、必要な物品、書類などの共有が出来るように年度当初に周知徹底する。6月の地震発生時の対応を教訓にし、さらに充実をはかりたい。 |
| | 学校ホームページ・パンフレットの充実 | A | 2 | 3 | 4 | | | 昨年度よりホームページ更新の回数を増やした。定時制のことが、十分に伝わりにくい部分があれば改善したい。 |
| | 授業等の公開 | A | 2 | 4 | 3 | | | 個々の問い合わせに対応し、随時授業を公開してきた。 |

